No1

部課名 産業経済部経営支援課 課長名 石原 事務事業名 インターンシップ事業 担当者名 古瀬秀幸 内線 4 5 9 事務事業を構成する小事業名 インターンシップ事業(01-06-03) 及び予算事業コード(21年度) 事務事業の種類 新規事業 21年度 20年度 建設事業 それ以外の継続事業 平成 開始年度 昭和 12 年度 根拠 終期設定 有 法令等 年度 無 実施基準 法令基準内 都基準内 区独自基準 計画区分 計画 非計画 分野 産業革新都市 行政評価 政策 活力ある地域経済づくり[05] 事業体系 施策 技術・技能承継の支援[05-06] 都立産業技術高等専門学校(航空工業高等専門学校)の学生が、区内の事業所で就業体験することにより、 目的 社会や職業の厳しさ、ものづくりの楽しさを学ぶとともに、区内企業の優秀な人材の雇用や産学連携を促進 し、産業の活性化を図る。 対象者 区内の希望企業、産業技術高等専門学校(航空工業高等専門学校)の学生 等 インターンシップの受入れを希望する区内企業において、以下により学生等が就業体験を行なう。 実施時期 7月末~9月中旬 夏期休業期間中 実習期間 5 日間 内容 参加企業の募集 区報等により周知 実習生の募集 各学校からの推薦 保険加入 実習生の傷害及び損害保険に加入(区負担) 報告書の提出 終了後、企業及び実習生から報告書を提出 インターンシップ事業として独立するとともに実施規模を2倍に拡大(6人 12人) 平成13年度 平成14年度 実施規模を拡大(12人 20人) 経過 平成20年度 都立荒川工業高校が都の「技能習得型インターンシップ」を実施することとなったことから、 当該事業の参加は、都立産業技術高等専門学校となった(20人 10人)。 必要性 産学連携による若手技術者の育成、区内企業の雇用促進の面から必要性は高い。 (1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 実施 方法

							(単1	位:千円)
予		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
算	予算額	635	564	604	604	611	611	303
· :+-	決算額(21年度は見込み)	555	560	562	552	597	297	303
決算	人件費			862	1,708	1,708	1,694	
好好	【事務分担量】(%)			10	20	20	20	
額等	合計(+)	555	560	1,424	2,260	2,305	1,991	303
の	国(特定財源)							
推	都(特定財源)							
移	その他(特定財源)							
	一般財源	555	560	1,424	2,260	2,305	1,991	303
実	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
績	参加企業数	13	14	14	15	17	9	
の	参加学生·生徒数	20	20	20	20	19	10	
推								
移								

No2

							1102
7	節・細節	平成19年度(決算	<u>(</u>	平成20年度(決	·算)	平成21年度(予算)	
予		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
算	報償費	受入企業謝礼	550	受入企業謝礼	275	受入企業謝礼	275
決	一般需用	消耗品	32	消耗品	16	消耗品	24
算	役務費	保険料	15	保険料	6	保険料	4
の							
内							
訳							
н/ \							

				指標の推	超		
指	事務事業の成果とする指標名	18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	指標に関する説明
	参加企業数	15	17	9	9	10	
標	参加学生・生徒数	19	19	10	10	10	

(指標分析)問題点・課題	・ハローワーク 独自の東京都 討が必要。	『等が実施	するインター	ンシップへの参加	によっ	いることから、今後、都立産業技術高等専門学校だっては、区が主体的に実施する必要性等について校 な受入企業の参加を促すことが必要。
施状況の実	(実施	2	X	未実施	20	区)

ŀ	問題,	点・課題の改善策検討			
		平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果		
		区報や企業巡回等を活用し、新たな受入企業の参加を促 す。	生徒等が、身近な企業の様々な分野の技術や製品づくりを体験することにより、ものづくりへの関心や 興味が高まるとともに、区内企業が優秀な人材の雇 用促進を図ることができる。		

事務	事業の分類	分類についての説明・意見等				
前年度設定	今年度設定					
見直し	改善・見直し	企業経営者の高齢化等による後継者難により事業の承継が困難となっており、特にモノづくりの現場においては、若者のモノづくりに対する関心の低下等により技術・技能の円滑な承継が難しくなっている。しかし、当該事業については、学校独自のインターンシップ事業を行うなど、事業開始時とは状況が変化し、その役割は終えようとしている。そのため、高等専門学校の当該事業への参加状況によっては、事業を終了することとする。				

況議	
ヘ 会	
会要質目問	
旨問	
ン状	

No1

		1									NO I
事務事業	業名	荒川マイ	イスター表	彰事業			部課名 担当者名	産業経済部経営 古瀬秀幸		課長名	石原 久 459
	を構成す 事業コー			荒川マ	イスター	·事業(01	-12-01)				
事務事業	業の種類	新規	事業	(2'	1年度	20年度)	建設事業		それ以タ	の継続事業
開始年月		昭和		成		年度	根拠	~#X 3**/K		2117,17	ME190 3 - 510
終期設定		有	無			年度	法令等				
実施基準			基準内	都	『基準内		自基準	計画区分	計	画	非計画
	-		産業革新		1			1877			
行政		政策	活力ある	地域経済	すづくり	[05]					
事業	14.糸		技術・技								
目的								能を習得し、それ る技術・技能の約			
対象者 等	と卓越し	」た技能	を持ち、後	進の指導	尊· 育成 🛭	こ積極的	な者。 3	30年以上従事し、 荒川区文化財保記 登録無形文化財(蒦条例第	2条第2	
内容	・表彰者 ・平成2 し、② 募 表 彰	皆には賞 0年4月か 区内外か 集:7月 式: 1	状及び記念 いら本庁舎 らの区役所	念品を授 1階の原 所来訪者 で募集、 ツパール荒	受与する代 展示コー 新に荒川、 締切 8 訓3階小	也、表彰。 ナー(整 マイスタ 8月末、聡 ホール)	パネルを作 備は3月末) ー制度とマ	者として、選考者成し産業展等で持た できまり できまい アイスター 受賞者 アスオター 、選邦	掲示しP として、 及び製品	R。 マイスタ を紹介。	ー製品を展示
経過	平成 6 年 平成 7 年 平成 12年 平成13年 平成21年	F度 F度 F度 F度 ~	荒川マイス 表彰式後の 表彰式を、 ・マイスな 対対	マスク イタ リカ マス リカ マス リカ リカ リカ リカ リカ リカ リカ リカ リカ リカ リカ リカ リカ	7ー倶楽部 一倶楽科 を休止 が功準を 登基を の が撤廃	部を結成 你 表彰と合 援和 ず50歳	(荒川マイ 同で開催 45歳)、 そ	スター表彰者で約 E住要件の廃止、) 受賞者に対する
必要性	技術・打	支能の継	承、後継	当育成に	向けた、	職人の	モチベーシ	ョン向上の観点が	から必要	性は高い	0
実施方法	(1直営)	((直営の:	場合	常勤	非常勤臨時	職員)		

							(単1	位:千円)
予		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
算	予算額	351	349	343	343	558	1,955	3,005
· :+i	決算額 (21年度は見込み)	189	153	112	142	190	1,514	3,005
決質	人件費			2,586	2,562	1,708	4,235	
好好	【事務分担量】(%)		\setminus	30	30	20	50	
算 額 等	合計 (+)	189	153	2,698	2,704	1,898	5,749	3,005
の	国(特定財源)							
	都 (特定財源)							
推移	その他(特定財源)							
	一般財源	189	153	2,698	2,704	1,898	5,749	3,005
実	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
績	表彰者数	2	1	1	2	1	1	
の	マイスター累計	51	52	53	55	56	57	
推	·							
移								

No2

							NOZ	
_	節・細節	平成19年度(決算	I)	平成20年度(決	·算)	平成21年度(予算)		
予	日 加田	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	
算	報償費	選定委員会委員謝礼	21	選定委員会委員謝礼	21	選定委員会委員謝礼	61	
決	食糧費	選定委員会委員賄い	1	選定委員会委員賄い	2	選定委員会委員賄い	1	
算	一般需用	バッジ、消耗品等	123	バッジ、消耗品等	741	バッジ、消耗品等	825	
算	役務費	表彰状筆耕料	7	表彰状筆耕料	7	表彰状筆耕料	22	
内	委託費	パネル作成等	37	記念撮影等	10	パネル作成・記念品等	1,272	
				伝統技術展設営委託	721	PR·映像記録保存用動画	722	
н	使用料及	会場使用料	2	会場使用料	12	会場使用料	102	

Ī					指標の推	移		
	指	事務事業の成果とする指標名	18年度	19年度	20年度	21年度	目標値 (22年度)	指標に関する説明
		マイスター認定者数	1	2	1	5	5	
	標							

(指標分析)問題点・課題	・区内産業の注 に周知する ・後継者難に。	取組みが必 よるモノづ	要である。 くり人口の減		づくり	離れ等の状況によ	術・技能を、さらに広く区内外 る、マイスター候補者の減少が
施状況の実	(実施	4	X	未実施	18	区)	

F	問題点・課題の改善策検討						
		平成22年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果				
		マイスター紹介パンフレットの継続的に作成しイベント等で配付するとともに、庁舎1階の展示コーナーにおける製品の展示・紹介や新たに製品等の製作過程を映像に記録・保存する。	紹介パンフレットの作成や常設展示コーナーでの製品展示・紹介、PR用を兼ねた記録映像作成することにより、マイスターの知名度、モチベーションの向上や販路拡大が図られるとともに、各マイスターの優れた技術を後世に伝えることが可能となる。				
		新たな優秀技能者の発掘を行うとともに、制度の充実を 図りため、認定基準の改正を行う。	既存の認定制度では埋もれていた優秀な技能者をマイスターとして認定することができ、制度の活性化が図られ、区内モノづくり産業を広くPRすることが可能となる。				
		荒川マイスターと区内企業の若手技術者との交流を図る 場を検討する。	荒川マイスターが有する技術の継承機会の創出、若 手技術者の技術向上に対する意識啓発が図られる。				

事務	事業の分類	分類についての説明・意見等	
前年度設定	今年度設定	力規にプロしの説明・息兄寺	
推進	推進	本事業は、高度な技術・技能を有する職人のモチベーション向上と、技術・技能の向上、承継を図るのもので、区内産業の活性化のためには重要。	

況(要旨)			
要質旨問			
⁾ 状			